第 18 講 【近代編】第一次世界大戦とヴェルサイユ体制

PART4 ヴェルサイユ体制とヨーロッパの状況

Chapter 1 イギリス，フランスの停滞とドイツの激動

目標
戦間期のドイツで極度のインフレーションが発生した理由をおさえよう。
ドイツが国際連盟に加盟した背景を学ぼう。

1 イギリスとフランスの停滞

①イギリス

A 〔　　　　　　　　　　　　〕（1918 年）

男性普通選挙（21 歳以上）が導入され，女性参政権が認められる（30 歳以上）

B 〔　　　　　　〕内閣の誕生

失業者が増大するなか，〔　　　　　　　　　　〕を首相とする内閣が成立

C 第 5 回選挙法改正で男女とも 21 歳以上に選挙権が拡大

②フランス

A ドイツへの警戒心とソヴィエトへの不信感（帝政時代の債務を放棄）が続く

B 〔　　　　　　　　　〕（1923 年）

ポワンカレ右派内閣がドイツの賠償金未払いに対してベルギーとともに占領

C 〔　　　　　　　〕の協調外交（左派連合内閣が成立）

→**ロカルノ条約**，**不戦条約**（ケロッグ・ブリアン条約）を締結

2 ドイツ革命とヴァイマル共和国の成立

①〔　　　　　　　　　　　　〕の結成

大戦中に左翼急進派が結成

※**カール = リープクネヒト**と**ローザ = ルクセンブルク**が中心

②ドイツ革命

1918 年，**キール軍港の水兵反乱**をきっかけに〔　　　　　　　　　〕が勃発

A **ヴィルヘルム 2 世**が退位し，**ドイツ帝国**は崩壊

B 各地に労働者と兵士による〔　　　　　　〕（評議会）が結成され，臨時政府と抗争

→**スパルタクス団**は蜂起するが，鎮圧される

③〔　　　　　　　　　　　　　　　〕の成立（1919 年～ 33 年）

当時世界で最も民主的とされる〔　　　　　　　　　　　　　〕が採択される

→**社会民主党**の〔　　　　　　　　　〕が大統領に就任

3　協調外交とドイツの国際社会復帰

①ドイツの苦境

社会民主党政府の 1320 億金マルクの賠償金支払い方針は，国民生活を圧迫，一揆が多発

A　賠償金支払いが滞り，フランスが**ルール占領**，工業地帯を占拠→ドイツの労働者はゼネストなどで消極的に抵抗

B　ドイツ政府は賃金支払いのためにマルクを増刷したため，極度の**インフレーション**が発生→経済・社会が混乱するなか，ヒトラーによる**ミュンヘン一揆**が勃発（失敗）

紙幣で遊ぶ子ども

②インフレ抑制策の実施

〔　　　　　　　　　　　　　　　〕が国土を担保に**レンテンマルク**を発行

③〔　　　　　　　　〕

アメリカが賠償金支払いの緩和策を提案するとともに，ドイツに資本投下

→ドイツが案を受け入れ，フランスはルールから撤兵

④ドイツの国際社会復帰

1925 年，ヨーロッパの安全保障を取り決める〔　　　　　　　　　　　〕が締結される

→翌年，ドイツは**国際連盟**に加盟

⑤〔　　　　　　　　〕の締結

1928 年，パリで**ケロッグ**（米）と**ブリアン**（仏）の主導で締結され，国際紛争を解決する手段としての戦争を禁止

⑥賠償金減額

ヤング案（1929 年）により 358 億金マルクに減額される→大恐慌以降，ローザンヌ会議でさらに減額されるもヒトラーが破棄

まとめ

フランスのルール占領でドイツの労働者が抵抗すると，政府は賃金支払いのためにマルクを増刷し，インフレが発生した。

ドイツがドーズ案を受け入れたことで賠償金返還の目途が立ち，ロカルノ条約締結の翌年に国際連盟への加盟が実現した。

Chapter 2　イタリアや東欧の状況とソ連の成立

目標
イタリアでファシスト党がどのように政権を獲得したのかを知ろう。
ソ連が進めた社会主義政策を学ぼう。

1　イタリアのファシズム

①戦後の財政窮乏
国民生活が困窮し，右翼と左翼が台頭
②［　　　　　　　　　　　　］の台頭
［　　　　　　　　　　　　］が結党。**ファシズム**を推進し，全体主義，極端な国粋主義によって独裁的政権を目指す→共産党の北イタリアストライキを弾圧
③［　　　　　　　　　　　　］による政権奪取（1922 年）
イタリア国王から組閣を命じられる
④拡大政策
ユーゴスラヴィアから［　　　　　　　　］を併合し，
［　　　　　　　　　　　　］を保護国化
⑤一党独裁体制の確立
ファシズム大評議会を国の最高機関に
⑥教皇との和解
［　　　　　　　　　　　　］（1929 年）を締結→**ヴァチカン市国**が成立

ムッソリーニのローマ進軍

2　東欧諸国の動向

①ポーランド
［　　　　　　　　　　　　］が独裁政治を行う。**ポーランド = ソヴィエト戦争**で領土を拡大
②チェコスロヴァキア
工業国のチェコスロヴァキアでは，マサリクやベネシュの下で議会民主政が発展
③ハンガリー
敗戦国となり，**ハンガリー革命**が勃発（1918 年～ 19 年）

→ソヴィエト政権が成立するが，列強が反発して崩壊

→**ホルティ**が独裁政治を行い，**トリアノン条約**での失地回復を進める

3　ソ連の社会主義体制の確立

①［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］成立（1922 年）

ロシア・ウクライナ・ベラルーシ・ザカフカースにより結成

②［　　　　　　　　　　］の権力掌握

レーニンの死後，［　　　　　　　　　　　　　　］を唱え，世界革命論の

［　　　　　　　　　　］と抗争→権力争いに勝利し，トロツキーを追放

③経済回復

新経済政策（ネップ）による

④［　　　　　　　　　　　　　　　　］

1928 年，農業と工業の集団化に着手し，社会主義経済の建設を進める

→農業は**コルホーズ**（集団農場）と**ソフホーズ**（国営農場）に集団化するが，農村は荒廃

⑤**第二次五カ年計画**（1933 年～ 37 年）

消費財生産にも注力，のちに重化学工業を重視

⑥スターリンの独裁

A　反対派の**粛清**

スターリン憲法を制定するが，民主的な規定は守られず，反対派の党幹部や市民を次々に逮捕・処刑

B　少数民族の弾圧

朝鮮人やチェチェン人などを中央アジアへ追放・強制移住

⑦社会主義の拡大

コミンテルンの策動により各地に共産党が成立

→**モンゴル人民共和国**が史上２番目の社会主義国として成立

まとめ

ファシスト党のムッソリーニがローマ進軍を行い，イタリア国王から組閣を命じられた。

第一次・第二次五カ年計画を行い，農業と工業の集団化を進めた。

第 18 講　PART 4　確認問題

1 イギリスにおいて女性参政権が認められるようになった選挙法の改正はどれか。

① 第 1 回選挙法改正　② 第 2 回選挙法改正
③ 第 4 回選挙法改正　④ 第 5 回選挙法改正

2 ヴェルサイユ体制下で協調外交を推進したフランスの政治家はだれか。

① ブリアン　② ケロッグ
③ ポワンカレ　④ マクドナルド

3 スパルタクス団を主導した人物はだれか。

① ヒトラー　② シュトレーゼマン
③ エーベルト　④ ローザ = ルクセンブルク

4 国際紛争を解決する手段としての戦争を禁止した条約を何というか。

① ロカルノ条約　② 不戦条約
③ ラパロ条約　④ ラテラノ条約

5 ムッソリーニが結党した政党はどれか。

① 労働党　② 社会民主党
③ トーリー党　④ ファシスト党

6 ムッソリーニの政権奪取に繋がった行動はどれか。

① ルール占領　② ローマ進軍
③ ヴェルサイユ行進　④ カルボナリの蜂起

7 レーニンの死後，トロツキーと後継者争いをするなかでスターリンが主張した考えはどれか。

① パン＝スラヴ主義　② 全体主義
③ 一国社会主義論　④ 世界革命論

8 1928 年，社会主義経済建設を推進するためにスターリンが打ち出したものはどれか。

① 第一次五カ年計画　② スターリン憲法
③ 新経済政策（ネップ）　④ ドーズ案

第 18 講　PART 4　確認問題 解答

1 解答：③

イギリスでは**第 4 回選挙法改正**により女性参政権が認められた。第 1 回改正ではブルジョワの参政権が認められ，第 2 回改正では都市労働者の選挙権拡大が実現した。

2 解答：①

ルール占領・撤退後にドイツとの和解を進めるなど，協調外交を推進したのは**ブリアン**である。④のマクドナルドはイギリス初の労働党内閣首相となった人物。

3 解答：④

スパルタクス団を主導したのは**ローザ＝ルクセンブルク**とカール＝リープクネヒトである。

4 解答：②

国際紛争を解決する手段としての戦争を禁止した条約は**不戦条約**（ケロッグ・ブリアン条約）である。①のロカルノ条約は第一次世界大戦後のヨーロッパの安全保障を規定した条約。

5 解答：④

ムッソリーニは**ファシスト党**を結成し，イタリアでファシズムを推進した。

6 解答：②

ムッソリーニは**ローマ進軍**と呼ばれる示威行動によって政権を奪取した。①のルール占領はフランスの対ドイツ軍事行動，③，④のヴェルサイユ行進とカルボナリの蜂起は時代が異なる。

7 解答：③

トロツキーが世界革命論を唱えたのに対して，スターリンは**一国社会主義論**を打ち出し，ソ連一国での社会主義建設が可能と主張した。

8 解答：①

市場経済を導入した新経済政策（ネップ）ののち，スターリンは本格的に社会主義経済を建設するため**第一次五カ年計画**を打ち出し，農業・工業の集団化に着手した。